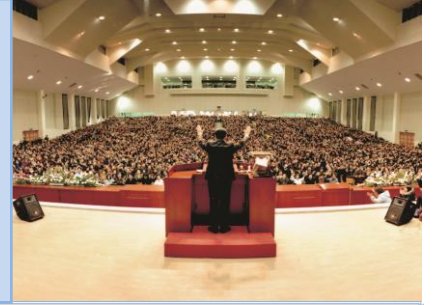


恵みと真理のニュース



2019年10月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

わたしの祈りに答えてくださって大きい喜びと充滿な使命を持って希望部で教師として献身するように導いてくださった神様に感謝します。

祖母がまず恵と真理教会で信仰生活を始めて私は祖母と母について教会で当会長のチョ牧師の説教を聞きながら育ちました。現在はシハ聖殿の青年奉仕宣教会に属して、主日はアンサン聖殿で教師として希望部を仕えています。

私は左の顔神経麻痺と耳の生まれつきの障害を持って生まれました。それで、子供の時から友達を付き合い合うことがよく出来なかったです。親は末子で生まれた息子が傷つけられないように貧しい環境でもわたしの耳を治すため努力しました。手術費を工面するため父は昼夜で熱心に働いて母も徹夜までして働きました。私と12歳の姉も看護師の夢をやめて早く家を出て寝る時間も減らして熱心に働きました。

私は親が夜遅く家に帰って来るまで一人で時間を過ごしました。寂しさと恐れを我慢したら性格が内省的に変えて自尊心が低くなりました。また、苦勞する両親を考えると優しいコンプレックスまで出来ました。そんな私を見てある日、区域長が区域礼拝を終えてわたしの家を出て“ポンシク！神様があなたをこの地に送られた理由が確かにあるはずだよ。

いつかはあなたが知るようになるよ。”とおっしゃいました。当時は技術が今まで発展しなくてインターネットが発達しなかったのでソイ症に関する治療法と関連する情報がありました。それで、親はあちこちの病院に捜しまわり情報を得ました。そうして、私は2年間3回にかけて手術を受けました。その期間はわたしは暑い夏でも厚い帽子をかけなければならなかったです。

そうするうちに人事発令で父が職場を移動しながら私たちの家族はシハ新都市に引越しました。母と私は教会を移しながら波がある信仰生活をしました。友達と仲良くなれなかった私は大聖殿で礼拝を捧げました。そんな私を長く見たある先生の助けで中学部で出席しました。心配したことと違って教会学校で同じ学校のような友達に出会って部署でよく適応することが出来ました。

高等部に入ってから私が特に賛美に関心を持って好き

な姿を見た先生から進められて聖歌隊と賛美団で奉仕しながら神様の関心と愛をもっと感じる事が出来ました。内省的で話が少なかった私に相変わらず関心を持ってくれた友達と先輩後輩達は偏見なしに私を愛してくださいました先生達のおかげで“私も他の人から愛される存在だったんだ。”と思うようになりました。神様に感謝して喜びの涙を流しました。私が受けるこのような愛をイエス様を信じない人々に知るように伝えて、信仰の兄弟達と共に分かち合いたかったです。

青年になって教会で礼拝の前に賛美を導いて聖歌隊の楽譜部長とパート長の職分を受けて奉仕を始めました。青年奉仕宣教会でも総務として宣教会を仕えながら青年達と互いに助けをくれて応援をして勇気を与えながら主の愛を分かち合うようになりました。その一方、障害を持った聖徒と隣日に助けたくなり社会福祉者の資格を得るため学点銀行を通して熱心に勉強しました。そうする中で声帯結節診断を受けて、賛美と関連される様々な奉仕の仕事を中断されました。

10年間、休まずに奉仕して来て、また好きだった奉仕活動したかったので礼拝席で座って奉仕した所を見るわたしの心はすごく痛かったです。それで、一時期“神様を恨んで不平をして聖霊が御言葉を通して感動を与えてくださり、神様が私のため予備したほかの使命と職分があるの”を信じて神様の摂理を期待しながら祈り始めました。わたしの欲と高慢があるのを悟って悔い改めて神様の哀れみと許しを求めました。

人間的な欲と高慢を全てを降ろすと神様が祈りに答えてくださいました。今まで私は神様がこれからのわたしの人生の方向とビジョンを明確に見せてくださり、全ての事にあっても楽しくてやりがいになるように、働きながら神様に栄光をささげる奉仕をするように導いてくださるのを願って切に祈りました。今は私がやりたくて私が好きです奉仕ではなく、神様が願っておられ教会でもっと有益にある奉仕をしたかったです。数日後、シハ聖殿の青年奉仕宣教会を担当する牧師と面談する中でアンサン聖殿の発達障害と知的障害がある学生と聖徒を仕える希望部の奉仕を勧められました。その時、わたしの胸が熱くながら、神様が下さる使命だと思いました。神様の御心を確実に知るため数ヶ月間アンサン聖殿で礼拝を捧げ神様に祈りました。確信になりました。

2017年の秋、収穫感謝節に希望部を探しに行きました。希望部の門の前までは行きましたが、門の前に立ってドアの取っ手を数回も取ったり、離したり繰り返しました。教会学校の学生の時から愛に関する恵まれる説教の聴いても障害ある人に対する偏見がまだ残っていたようです。ちょっと迷いきびすをめぐらして家に帰って行こうとして教会の前の横断報道の前に立って信号を待っていました。2分が20分のように感じまし

た。その時、当会長の牧師が説教してくださったアブラハムに関する説教が思い出しました。行くところを知らなかったですが、神様の御言葉に従順したアブラハムの信仰を考える時、私が恥ずかしかったです。帰って希望部の礼拝室の扉を開けて入りました。その日、私を歓迎する多くの学生達を見て熱心に奉仕をする決心しました。純粋な心と小さい一つも大きく笑う顔たちを見ました。希望部を仕えながら学生達と疎通が出来てから不便な部分を満たそうため努力したら自然に偏見がなくなり、わたしの性格も肯定的な性格になり小さい事でも大きく感謝する生活をするようになりました。希望部の先生達を初め教会学校の多くの先生達が熱心に部署と学生達を仕え奉仕しながら学生達が変化された話と言葉と行動の一つ一つに喜びを得て感動し、その喜びと感動を持って一週を幸せに送り、学生達のため涙を流して犠牲して献身する姿を見ながら深く感動と恵を受けました。

優しいコンプレックスがあって愛を求めて嫉妬が多くて高慢で自我が強かった私が、他の人の視線と私の体面は考えなくてただ主だけを意識ながら低い姿勢で仕えるため努力するようになりました。イエス様が見せてくれた主の仕える愛と真の意味を悟りました。イエス様が教えてくださった教訓が深く心に来ました。いつもわたしの存在の理由をわたしの自分に聞いてたまに苦難にあうとなぜ不平不満だった私が、神様の尊い子供の存在であるのを認識して神様に感謝するようになりました。神様は私の有益だけを求めるのではなくて主の喜びと他の有益のため生きるのを願いました。どんな状況でもまず、神の国と御心を願う求めゆだねながら生きるのを願っておられました。全ての人と私物を神様の目で見ると願いました。一人の魂が尊く愛らしく、どんな状況でも神様に尊く用いられることが出来ること知りました。

私に恵と真理教会は吹いてくる風に揺れる苗木が根を深く下ろして強くなり、健康な木で成長させた大事な神様の家です。幼いときから私は当会長の牧師の恵ある説教を聴いて成長して数多くの教役者と聖徒達の心が一つになって愛と献身の姿で幼いから見てきたので神様の恵みに感謝します。

神様が任せた希望部の教師の職分を充実に担え私たちの教会の3大目標を成し遂げることに熱心に参与して献身することを決心して神様に全ての栄光を捧げます。“わたしは、強く雄々しくあれと命じたのではない。うらたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる。”(ヨシュア記1:9)アーメン!



【信仰コラム】

神から出た者

“子たちよ、あなたがたは神に属しており、偽預言者たちに打ち勝ちました。なぜなら、あなたがたの内におられる方は、世にいる者よりも強いからです...”(ヨハネの第一の手紙 4:4~6)

人は生まれる日から人種、民族、時代、家柄、国家、地域等に属して生きていきながら多様な種類の組織と団体に属します。その所属は自分の意志と無関係なことで自分の選択による場合があります。自分の選択によってその外の所属が肯定的な意味を持つようになり、一生と永遠な生活に影響を及ぼす所属に関して調べてみます。それは神様に属することです。

第一、人が神様に所属する道に関して調べてみます。アダムとエバの罪によって彼の子孫達の霊的な状態は神から遠く離れています。しかし驚くべきにも神様は罪人達が神様に属する人になる道を備えてくださいました。イエスキリストがその体を十字架に与えてくださり私達が神様と和らぎ、神様に属するようになりました。教育、修養、慈善、宗教行為が人の霊的な所属を変えることはできません。イエス様の贖いの死以外に他の方途はありません。

第二、霊的な所属の変化が位置の変化を意味するということ調べてみます。

神様が犯罪したアダムにお越しになり“あなたは、どこにいるのか”と質問なさいました。これはアダムがいかなる状態に処されているかを表す質問です。犯罪した人生の霊的な位置は神様を遠く離れています。罪が神様と人間の間を分離させたのです。罪人が許しを受けて救いを得るためには位置の変化があるべきです。犯罪した人生達に神様が施される救いは行為におらず位置にあるという真理が“あなたは、どこにいるのか”という質問に啓示されました。この真理はノアの洪水事件で鮮明に啓示されました。箱船はイエスキリストの模型です。‘キリスト人’という言葉は位置と所属を全て表します。イエスキリストを信じる人はイエスキリストの中においてイエスキリストに所属されています。言い換えて神様に属しています。

第三、聖徒達の強くて大胆な心は神様に属したという徹底な所属意識から始まるという事実を調べてみます。使徒パウロの例を見てみましょう。使徒パウロが外の囚人達と一緒にローマに行くようになり乗船した船がユーラクロンという恐ろしい暴風に遭いました。10日以上を続く荒い風波に船は難破されて全て何も食べられず疲労困憊になりました。そのような中でパウロが彼らの中に立って話しました。“だが、この際、お勧めする。元氣を出さない。舟が失われるだけで、あなたがたの中で生命を失うものは、ひとりもないであろう。昨夜、わたしが仕え、また拝んでいる神からの御使が、わたしのそばに立って言った、『パウロよ、恐れるな...』パウロは“わたしが仕え、また拝んでいる神”と自分の所属を明らかにしました。苦し

い時”私は神様に属した”と話してみてください。慰めと大胆が生じるでしょう。

最後に、神様に属した人が知るべきで実践すべきの態度に対して本文を中心に調べてみましょう。

一は、神様に属した人はサタンに勝つとしました。サタンの目的は盗んで殺して滅ぼさせることです。人の力ではサタンに勝つことができません。しかし神様に属した人はサタンに勝ちます。神様に属した人々の中には神様があらわれて、私達の中におられる神様がサタンより能力があって強いからです。艱難と逼迫と試しで攻撃するサタンに対敵して“私は神様に属した。神様が私の中におられる。私を害しようとするサタンよ、退け”と命令してください。

二、神様に属した人はこの世に属した言葉は排斥して使徒達の言葉を聞くとしました。聖書の御言葉に外れる教理や神学思想に耳を傾ける人は神様に属した人ではありません。異端の言葉に耳を傾ける人は神様に属した人ではありません。使徒達がした言葉が記録された本が聖書です。自分が真理の霊すなわち聖霊の導きを受けているのか、誘いの霊すなわちサタンの影響力の下にいるのか聖書通りに教える言葉を聞くか否かで分別することができます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

役割分担



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

いろいろの人が集まって一緒に生活する社会は、そのメンバーに分担されているどんなの役割があります。メンバーが自分の役割を知って見事に実行すると、秩序があり安定して力があり発展する社会になります。ただ、その役割が、その社会の安全と利益を与えるものでなければなりません。神の民は、神が分担される役割があります。聖徒たちが信仰生活をよくするには、神が個人または組織体に分担される役割を十分に知って実行しなければならないです。クリスチャンは、神の主権と摂理を信じてこれに順応しなければならないです。神は善と義と真実のために苦勞している人たちと一緒にして助けてくださいます。したがって、自分の役割が何なのかを知って、積極的に力を尽くしながら、一方では、神が、いろいろの手段を使用して働くことを覚えます。聖書には、このような事実を教訓する事件が多く記録されています。私たちは、このような先例を詳しく見てみます、これを学び、適用しなければならないです。

まず 旧約聖書のエステル記を見てみましょう。

ネブカデネザル王の侵攻を受けて国が滅びたユダヤ人は、バビロンに捕虜になっていきました。このようなことは、ユダの民が偶像崇拜のための神から罰を受けたからできたことです。バビロンに捕虜になって連れて行ったユダヤ人々は、ついに自分の罪を悟って悔い改めました。歳月が流れてペルシャがバビロンを支配するようになりました。ペルシャ王クロスがユダ民族は故国に帰ることができる自由を得るようになりました多数のユダヤ人が帰郷しましたが、まだバビロン各所に残っているユダヤ人が相当数ありました。アハシュエロス 王がペルシャを統治する期間中にユダヤ人を絶滅の危機が見舞われました

ハマンが王の寵愛を受けて大臣の中で最も高い地位に上がったが、彼は王宮の出入りする際に、ユダヤ人のモルデカイがハマンにおじきしませんでした。おじきする行為がユダヤ人には、神への礼拝の意味からです。ハマンはモルデカイに対して大変不快な感情を持つようになり、最終的にモルデカイを殺すと考えをしました。ところがモルデカイがユダヤ人であるという事実を知ることになり、ユダヤ人を全滅させようと図りました。ハマンはアハシュエロス 王の許可を受け出して 12 月 13 日ユダヤ人を全滅させようと調書を全国に送りました。

民族絶滅の危機に処されたのを知ったモルデカイとユダヤ人たちは、断食して大声で泣きました。モルデカイは親した従妹エステルをむすめのように育てたが、驚くべきにエステルが王妃に選ばれて王妃になっていました。

モルデカイは王妃エステルにこの事実を知らせ、王に訴えるよう要請しました。王が呼ばないのに 王の御前に進む人は、死を免れない王宮法がありました。しかし、王が金ホールを差し出すと命を維持することができました。エステルは王が呼ばないのに王に進んでいくのは危険なのをモルデカイに伝えました。

モルデカイはエステルが断食をするように強力に説得しました。「モルデカイは命じてエステルに答えさせて言った、「あなたは王宮にいるゆえ、すべてのユダヤ人と異なり、難を免れるだろうと思ってはならない。あなたがもし、このような時に黙っているならば、ほかの所から、助けと救がユダヤ人のために起るでしょう。しかし、あなたとあなたの父の家とは滅びるでしょう。あなたがこの國に迎えられたのは、このような時のためでなかったとそれが知りましょう」(エステル記 4:13,14) エステルはモルデカイの忠告を受け入れる決意をしました。自分の任務を遂行するため、スサ 都城のユダヤ人をすべて集めて、三日間断食しながら祈るように要請しました。エステル自身も断食しました。エステルは、結局に死を覚悟して王の前に進みました。すると驚くべきことに、王が、さらに エステルを喜んで、願いを聞くことになりました。

エステルは王とハマンを彼が準備した宴会に二日にかけて招待しました。王妃の初日の宴に出席し、帰ってきたハマンはモルデカイを処刑する悪巧みをはかり、彼の家の庭に処刑台を立てました。二日目の 宴会席で王が王妃の願いをあらためて聞くとエステルは、ハマンの悪巧みを暴露して告発しました。激怒した王はハマンを処刑するのに、ハマンはモルデカイを殺そうと立てた木に吊り下げ殺しました。一方、王はモルデカイが王を暗殺しようとするプロッターを告発した者であり、王侯の兄というものもわかるようになりました。王はモルデカイに王の印章指輪を与え、首相の地位を与えユダヤ人絶滅を防ぐための自分の救済策になる調書を全国に送るように指示しました。モルデカイはハマンがユダヤ人を殺し、その財産を奪取するように定められた日の 12 月 13 日にユダヤ人が力を合わせてユダヤ人を迫害しようとする者をかえって殺しなさいと調書を全国に送りました。モルデカイはこの事件を歴史に記録して全国のユダヤ人に文を送って定めを立てて毎年 12 月 14 日、15 日を記念日と守るようにしました。ここで私たちが知ったのは、神は災いを転じて福となるようにされる摂理し、状況を逆転される能力だけでなく、モルデカイと王妃エステルとユダヤ人の役割分担です。これらは神は彼らに分担された役割とは何なのかを知って、積極的にこれを行いました。行動することと祈ることです。

別の例を見てみましょう。

エジプトから解放されたイスラエルの子らが、モーセの指導の下で、カナンへの地に向かって行進しました。神が施してくださる奇跡的に紅海を無事に渡りました。彼らは神の命令に基づいてシン荒野を通過してレピデムで幕を張りました。そのアマレク人がイスラエルを攻撃しました。アマレク人は積極的であった戦争の能しました。イスラエルは、訓練された兵士もなくろくな武器もありませんでした。しかし、死ぬだけ待つことはできません。モーセはヨシュアに装丁を連れて出て行って、アマレクと戦うように指示して、自分はアロンとフルを連れて戦場を見下ろす高い所に登りました。

たモーセは、背後で祈りました。奇しくもモーセが手を上げていれば、イスラエルが勝つのに手を下げるとアマレクが勝ったのです。これを見守ってアロンとフルは石を持ってきて、その上に、モーセが座らせてアロンはこちら側でフルは向こうからモーセの手を握ってあげました。するとヨシュアの軍隊がアマレク人を打って勝利しました。アマレクを退けることにヨシュアの役割とモーセの役割そしてアロンとフルの役割が異なっていたが、その役割を実行中の方が無いと勝利を得ることができなかったという事実を、私たちが考えるべきです。

次に ヨシャパテ王がユダを治める時でした。

モアブ、アモン、マオン連合軍が同盟して侵攻しました。ヨシャパテ王は神を恐れる信仰が透徹したため、すべての民に断食を宣言し、王とユダの民が神の前の庭に集まって祈りました。この祈りを聞かれた神の預言者ヤハシエルを通して勝利を確実にする予言を与えてました。ヨシャパテ王は聖歌隊を動員して、軍隊の前に立てて賛美し、神が預言者を通して指示された通り、戦場に向かって進みました。賛美の内容は単純ました。「主に感謝せよその慈悲おられるのが永遠である」としました。「憐れみ」とは人間に対する神の恵みを指すものと神の恵みが永遠とを賛美しました。

ユダの人々が高い台に至って敵陣があるところを見下ろしました。ところが、驚くべきことに敵陣に死体だけでした。連合軍の中に内乱が起こってしまっていた。どのようにこれらのことが起こったか詳しく知ることはできない、とにかく、神の摂理になったものです。このような奇妙な事態がいつ起こったかという、ユダの民の賛美が始まる時でした。ヨシャパテ王と民がそこに降りて行って戦わず得られた勝利の結果である戦利品を取り入れました。その分量がどのように多くか三日にかけて運搬しました。

現在、韓国時局に関連した愛国者たちの愛国行為はいろいろあります。

そのすべての行動の背後には、韓国と教会を立て重大な使命を与えられた神の摂理があります。国民を目覚めさせ、励まして力を集めるための活動をしている方の役割が非常に大きいです。これらはまるでアマレクとの戦いヨシュアのような役割を果たします。韓国と教会のために多くの教会が連合して集まって祈り、賛美します。各教会に集まって祈り、賛美し、個人的にも祈って賛美します。

ただし 神のあわれみと助を渴望して祈り、賛美します。祈りと賛美は、神への呼びかけです。賛美は曲調のある祈りです。祈り、賛美するこれらはモーセのような役割を果たします。四方に塞がっている状況でも、神があわれんでくださって考えていただいて助ければ、私たちが知らない奇異な方法で災い転じて福をなる体験するようになります。状況を逆転させる神の力を体験するようになります。このようなことが、必ずしも韓国と教会にあるように確信しています。